岩下議員(民主県政会)

平成 26 年 12 月 12 日 教育長答弁実録 (教育委員会)

(問) 防災教育に係る使用教材の明確化等について

先進的な取組を広げて意識を高めていくことは良いことであるが、一方で、 指針では様々な教科の中で災害に対して少しずつ取り上げ、考えさせることを 各教育委員会等へ対して示しているだけである。

"みんな de なかよくまなぼうさい"といった冊子を作成しているが、防災教育専門の教科書として指示しているわけではない。

このように各市町の教育委員会・学校の自主性に任せられている状況では、 必要最小限の教えるべきことや取り上げるべきことが児童生徒に確実に伝わっ ていくのか憂慮している。

今回の災害を教訓として、県として取り上げるべき教材に、例えば、市町の発行するハザードマップや"みんな de なかよくまなぼうさい"は必ず使用することなどを明確化、あるいは、推薦していくべきではないかと考えるが、教育長の所見を伺う。

(答)

学校における防災教育を推進するため、本年10月に、御指摘の防災啓発冊子につきまして、各市町教育委員会及び県立学校に対して、活用するよう改めて通知をしたところでございます。

さらに、来年2月に実施をいたします防災教育の研修会におきまして、自分たちの住んでいる地域の災害危険箇所を知るために、ハザードマップの活用方法を紹介するなど、防災に関する資料を効果的に活用するよう指導してまいります。